

旭区ボランティアセンターを紹介します!!

旭区ボランティアセンターでは、ボランティアをしたい人(団体)とボランティアに来てほしい人(団体)をつなぎます!また、活動中のボランティアに関するご相談やお悩み、疑問などに応じています。ボランティアコーディネーターがお話を伺い、ボランティア活動を支援しますので、お気軽にお問い合わせください。

その他、ボランティア講座の開催、ボランティア保険の受付、福祉機器の貸出し、善意銀行(寄付の受付)なども行っています。

ボランティア保険説明会開催のお知らせ

安心安全にボランティア活動を行うために、大切な保険について、保険会社の方からお話を伺います。

日時●平成31年2月19日(火) 10時~11時30分

場所●旭区福祉保健活動拠点 ぱれっと旭(鶴ヶ峰1-6-35)

対象●平成30年度にボランティア保険に加入している団体

内容●ボランティア活動保険・行事保険の申込み時の注意点や改訂ポイントについて



●ボランティアをしてみたい方

まずは窓口にお越しの上ボランティア登録をしていただきます。その後活動の紹介はお電話か面談、またはE-mailにて。

●ボランティアをしてくれる人をお探しの方

お電話か面談にてご相談をお受けします。

●例えばこんなボランティアがあります!

- ★高齢者施設でドライヤーかけやお話し相手、囲碁・将棋のお相手
- ★地域のサロンやちよっことボランティアなどの生活支援
- ★障害のある方の移動支援 など



地域の高齢者を支える会食ボランティア

旭区ボランティアセンター

開館時間●月~土の9~21時/日・祝の9~17時

Tel●045-392-1133 Fax●045-392-0222

E-mail●asavora@ceres.ocn.ne.jp

善意銀行に寄付いただいた方々

次の皆さまから善意銀行へご寄付いただきました。ありがとうございました。

寄付者一覧(平成30年5月1日~8月31日) (順不同・敬称略)

(金品寄付)

荻窪 邦昭/内田 忠夫/あさひ茶花道協会/旭区舞踊協会
旭区チャリティゴルフ大会実行委員会/たかはし書道教室
旭区ボランティア連絡会/匿名6件

(物品寄付)

神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部
旭ジャスマツリ実行委員会



平成30年度 旭区チャリティーゴルフ大会

チャリティーゴルフ実行委員会より開催報告

毎年恒例の「旭区チャリティーゴルフ大会」を5月7日(月)に戸塚カントリー倶楽部で開催しました。44組171名(男性157名/女性14名)が「名門コース」でのプレーを楽しめました。途中、雨が降り出しましたが最後まで無事にプレーすることができました。

参加費の一部とチャリティーホールで集まったご寄付は、善意銀行を通じて区内の地域福祉活動に役立たせていただきます。

善意銀行への寄付金額579,767円

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

編集後記

●笹野台地区のかがやき食堂こども食堂を取材しました。今回は流しそうめんです。自治会・企業・地域ケアプラザ・ボランティアの方の共同作業と、スムーズな運営で多くの方が楽しい時間を過ごしていました。これからも続けていただきたいです。(尾野憲司)

広報委員会

●「子どもたちの居場所」を考え、運営する、ほっとさこんやま「日曜ほっと」を取材しました。50人近い子どもたちの明るい声や笑い。なんとも楽しそうに、「ここが私たちの楽しい居場所」と言わんばかり。これもスタッフの素晴らしい努力から生まれたものと感じました。(中川士郎)

渡邊 敦子(白根)/相澤 明子(川井)/吉田 澄子(上白根)

長谷川 貴子(希望が丘中)/安部 きみ子(希望が丘東)
佐川 三男(万騎が原)/尾野 憲司(二俣川ニュータウン)
中川 士郎(市沢)

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35
TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222
http://www.palletasahi.jp/ 旭区社協



旭区社協だより

No. 99

平成30年11月1日発行

あさひ 「この町が好き」と言えるまちづくり

いきいき宣言

http://www.palletasahi.jp/

この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の配分金で発行しています。

旭区社協

地域共生社会の実現に向けて

~地域と支援機関が一体となって取り組む地域づくり~



去る平成30年7月9日(月)旭公会堂で旭区地域福祉保健計画推進研修(旭区社会福祉協議会会員研修)が開かれました。講師に日本福祉大学教授の原田正樹氏をお迎えし、今求められる地域福祉の視点や活動を進めるにあたってのヒントをお話しいただきました。

パネルディスカッションでは白根地区の居場所づくり、市沢地区キャッツハンズクラブ(日常生活家事援助)の取り組み、生活支援コーディネーターの区内スーパー等の配達サービス一覧の作成と、区内の地域共生社会へ繋がる活動事例が発表されました。

講演のポイント「地域共生社会の目指すもの」

- 一人暮らしで、認知症の、要介護2の人が地域で安心して暮らせるまち
- 地域住民が、公的機関・施設・企業と協働してたすけあいながら暮らすことのできる仕組みの構築
- 公的支援の高齢、障害、子どもなどの「縦割り」から「丸ごと」への転換
- 支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域

旭区社協は今後も地域共生社会の実現に向けて皆さんと一緒に取り組みます。

今回の特集は居場所づくりのために、地域住民が公的機関や企業と協働した事例を紹介します。詳しくは中面へ

笹野台地区●かがやき食堂・こども食堂

.....企業×自治会

地元企業と地域が手を組む居場所作り

かがやき食堂は偶数月 こども食堂は奇数月
 第3月曜日 17:00~19:00 東笹野台会館にて

この日はかがやき食堂（高齢者対象）とこども食堂の合同開催。メニューは流しそうめんでした。竹を流れるそうめん、時にゼリーを来場者はわいわいとすくって食べていました。

この食堂が始まったのは1年ちょっと前。地元に貢献したいと株式会社おむらいすの橋本氏が東笹野台自治会長へ相談したことで始まりました。数回開催するとあっという間に口コミで広がりました。

「子どもたちは100円では食べられないような「にぎり寿司」「ステーキ」とリクエストしてきます。無理難題もプロとしてやってやるとその挑発にのってメニューを考えています。こんなまさかの展開が大好きなんです。」と橋本さん。「地域の理解をもとに開催できる。だから根回しも大事」と恩田自治会長。

地域では担い手不足、高齢化と新しい事業を立ち上げるには負担が大きい。そんな中、地域貢献を考える



企業が手を挙げ、地域住民と共に居場所を作る。これからの「地域共生社会」を作る強力な担い手は地元の企業でした。そして、すっかり顔なじみの子ども達。この子たちが将来の活動の中心になる日も近いかもしれません。



初めての流しそうめんに大興奮



左近山地区●日曜ほっと

URのワークショップをきっかけに地域とNPO、学校が連携



毎月第3日曜日 13:00~15:00
 ほっとさこんやまにて

商店街の入り口にひときわ賑わう場所がありました。多くの子どもたちがボランティアと共にボードゲームなどを楽しんでいました。

この場所が始まるきっかけになったのは、UR（神奈川県住宅供給公社）が団地の活性化を目的に住民を集めて行った「子育て支援」というテーマのワークショップ。その中の有志が「ほっとさこん部」としてNPOに加わり「地域のおとなたちに見守られながら子どもたちが安心して健やかに成長していける左近山」をめざし、平成28年1月より日曜ほっとが始まりました。

今宿地区●かたびら珈琲

.....神奈川県×民生委員×中学生ボランティア

神奈川県が目指す「健康団地」から始まる居場所



毎月第1日曜日 13:00~15:00
 県営今宿団地 5号棟 まごころの家

会場前で「コーヒーいかがですか」と元気な男の子が声をかけてくれました。そこには可愛らしい「かたびら珈琲」の看板があり、誘われるままに団地の一室のドアを開けると、コーヒーの香りに包まれました。

現在神奈川県では高齢者等が健康で安心して住み続けられる県営住宅を目指す「健康団地」の取り組みとして、空き室の有効活用を進めています。県営今宿団地でも県の協力のもと昨年「まごころの家」という場所ができ、ここを活用して今年7月から始まったのが地域でボランティアがしたいと手を挙げた「今宿地区中学生ボランティア」とそれを支援する民生委員で開いている「かたびら珈琲」です。

当日は、開催の噂を聞いて団地内外からお客さんが来所し、とても賑わっていました。「子どもがコーヒーを淹れてくれるのが嬉しい」との声もあり、おかわりをされている方もいました。

神奈川県の取り組みをきっかけに、中学生や地域の方の力で素敵な交流の場ができました。



お手伝いに来ていたジュニアボランティアが即興で落語を披露



中学生ボランティアが豆を挽き、サイフォンを使って淹れています

UR×NPO×地域×学校



内容はボードゲームやコマ回し、羽子板など大人と子どもが一緒に遊べるもの。代表の沼田氏は「ゲームは大人、子ども関係なく真剣勝負できる。それがいいんです」といいます。そして「この活動には学校や地域の診療所の院長も関わっている。何かあれば相談できる関係もありがたい」と。



スマホや電子ゲームは使用禁止。老若男女問わずワイワイ遊びます。

多方面の機関との連携を通して未来につながる取り組みがありました。